しっかり学習　たっぷり交流

青年部が沖縄ツアー

大阪自治労連青年部が11月８日～10日に「沖縄ツアー」を開催しました。１日目は水族館とマングローブを見学して環境問題を考え、夜はにぎやかにキャンプファイヤー。２日目はあいにくの雨の中、首里城など名所を観光。最終日はアブチラ・ガマ（沖縄戦の野戦病院跡）や普天間の米軍基地など沖縄の負の遺産を実感。よく学び、食べ、たっぷり交流した３日間でした。

秋季闘争で職場と生活を改善しよう!!

働きつづけたい
いい保育がしたい

和泉市アルバイト保育士分会

「ぽっかぽか」を結成

元気がみなぎった結成大会

10月29日、和泉市職労にアルバイト保育士分会「ぽっかぽか」が結成されました。雇用は６か月以内の短期雇用の繰り返し。一方的に解雇されたり、配置を替えられたり不安を抱えています。「こんな状態を変えたい。声をあげよう！」と勇気をだして起ち上がりました。

おおさか自治体の仲間

発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2008年11月15日　No.238

〒530－0041　大阪市北区天神橋１－13－15大阪グリーン会館４Ｆ　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／谷　真琴　　編集人／久保　貴裕
平成２年９月12日第３種郵便物認可
毎月15日発行（１部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

「寄贈してくれた人の、大切な思いを預かっているんです」

６万点の上方演芸資料を収集・保存

大阪府立上方演芸資料館
ワッハ上方　学芸員
古川　綾子さん

貴重な上方演芸の資料と日々向き合っています
手にしているのは100年前の演芸ポスター

ワッハ上方は、笑いのメッカ・ナンバ千日前にあってこそ

ミナミの千日前にある府立上方演芸資料館「ワッハ上方」。演芸ホール、展示室、ライブラリーがあり、全国で唯一の「笑いの資料館」として大阪の演芸文化を支えています。ホールの年間稼働率も9割を超え、毎日多くの演芸ファンが訪れます。ところが橋下知事は、ホールを廃止して施設を縮小し、別の場所に移転しようとしています。大阪の演芸文化を覆す計画に対して、多くの府民が、現地での施設の存続を求めています。

公共の施設だから寄贈してくれる

ワッハ上方の指定管理者であるNPO法人の職員として働く古川綾子さん。収集している6万点の資料を分類・整理し、府民や演芸関係者、マスコミからの照会にも対応しています。保存している資料は、漫才、落語、講談、浪曲など上方演芸に関わるビデオテープ、レコード、台本、ポスター、プログラム、写真、書籍、研究書類と多岐にわたります。往年の芸人さんの遺品も遺族から寄贈、寄託されています。時が経てば散逸し、埋もれてしまいそうな貴重な資料をデータベース化し、これからの上方演芸の振興に役立てるように保存する地道な仕事。「公共の施設だから、遺族の方も放送局も無償で資料を提供してくれるんです。『お父さんが舞台に立っていた思い出の地、なんば花月の向かいにあるから…』と寄贈してくれる人もいます。一つひとつの資料や遺品に、大切な思いが込められているんですよ」。

中田ラケットさん、人生幸朗さんが愛用していたスーツ

資料館とホールは一体のものです

「高校時代から、漫才コンビ・ダウンタウンのファンでした」という古川さん。大学院で上方演芸を研究してきました。大学院の時にワッハ上方を紹介されて、最初はアルバイトで始めた学芸員の仕事は、今年で8年目になります。これまで寄贈してくれた人との数々の出会い、資料や遺品と日々向き合ってきた経験から、施設を移転縮小する知事の方針には大変な危惧を抱きます。

「移転するなら遺品を返してほしいと言われる方もいます。この施設が築いてきた、大切な人のつながりを断ち切らないでほしい。保存している資料も、ホールで催している今の演芸と結びついてこそ活かされます。資料館とホールは一体のもの。ホールをつぶして、資料だけどこか別の場所に移転すればよいという知事の考えは絶対に納得できません」